

同胞

ほらから

櫛引中学校後援会報
vol.35



好きなことで生きていく

やりたいことに幾度も挑戦し
ようやくたどり着いた農業。
肥料や農薬を使わない農法に取り組んでいます。



阿部かおりさん(三千刈)

平成7年度第38期卒業
鶴岡北高校卒業。短大中退。様々なアルバイト、海外生活、不動産会社、金融機関勤務等を経て、現在、地元で水稲や野菜を自然栽培で育てる「庄内風土農園」を経営。

中学時代は優等生、高校時代は…

私は1993年に櫛引中学校に入学しました。中学時代は勉強が好きだったので、成績は良い方だったと思います。ただ本音では、テストで良い点数を取ってほしい、そうすればいい子だと思ってもらえると考えていました。ところが、高校ではそんな風に勉強をしてきたことに疑問を抱くようになり、勉強を放棄し、成績もビリ争いをするほどに落ち、髪も金髪にして怒られ、中学時代の生活から一転しました。それでも、英語をうまく話せるようになりたいという思いや、ヘアメイクの仕事への憧れがあり、ヘアメイクの専門学校に行きたかったのですが、親の反対で断念し国際系の短大に進学。ところが、授業についていくのが大変だったことと、自分が本当にやりたいことではなかったこともあり、数か月で退学しました。そして、小売店、コ

ンビニのバイト、菓子製造業、電子製造業、スポーツ用品店と、様々な仕事を経験。21歳の時には、ボード好きが高じてカナダに渡航。海外を自分の目で実際に見て英語を学びたかったので、必死になってお金を貯めました。カナダでは、ホームステイしながら語学学校に通い、その後スキー場で寮生活のリゾートバイトをしました。

挑戦を繰り返す

24歳の時、スキルアップを目指して不動産会社の事務職として東京で働き始めました。憧れていた東京での生活も、最初の数ヶ月は楽しかったのですが、忙しさを理由に食事を粗末にし、そこにストレスが重なって体調を崩し、休日はずっと部屋にこもっていました。時間が経つにつれてやっぱり自然に恵まれた櫛引に帰りたいなあと感じるようになってきました。

そして、地元に戻り鶴岡の金融機関で働き始めた頃、あの東日本大震災が起こったのです。何気なく暮らす毎日が始まり前ではないことに気づかされ、日々丁寧に暮らしたいと思うようになり、まずは普段の食を見直すことから始め、仕事は、お客様に食事を提供する日本料理店で働きました。しかし何か違う感じがして、次は官公庁で農業関係の事務職をしました。そうしているうちに自分が目指す農業のイメージが湧き、農作物そのものを自分で作ることに、私にはこの道しかない！これならできる！「やりたい」ではない、「できる！」という感じがしたのです。

そこで私は、「自然栽培」という方法を選びました。「自然栽培」は生産者によって定義(ルール)が違いますが、基本的には堆肥や肥料、農薬は一切使わない栽培方法を指します。人間



広大な田んぼを何往復もしながら丁寧に雑草を取り除くのが大変。でも、秋には黄金色に美しいお米が実ります。

が自ら土に何も加えず、土そのものの性質を生かす栽培です。簡単に言うと、大昔の作り方です。「他の生き物を殺す必要ないんじゃない？」と思ったのです。すべてが必要だから自然界に存在しているという考え。この栽培方法をしている農家はほとんどないため、最初は専門書を読むことから始め、県内外で開催される勉強会に参加したり、同じような栽培をしている先輩農家に聞いたりしていきました。

自然に逆らわない

そうして作る作物は需要があり、今は米をメインに人参、大根、梅、生姜にんにく、芋類、豆類などを栽培しています。収穫がピークを迎える秋は、櫛引地域で開催しているこしやってマルシェなど、様々なイベントに出店し



日の出とともに畑に出るのが日課。動きやすい「もんぺ姿」で枝豆の手入れをするかおりさん。



上：ゴボウの花 下：綿花



肥料や農薬を使わない「自然栽培」で作られた枝豆とカボチャ。

ています。野菜の種を見たことあるでしょうか？ホームセンターなどでも、いろいろな野菜の種が売られています。売っている種は人間に都合の良いように、農薬処理や加工がされています。そのため私は、手間はかかるのですが、畑に出られない冬に、種採りを行っています。

このように、手間暇もかかり、重労働も多い仕事なので、女性ひとりでは難しいこともたくさんある農業ですが、自分と同じ考え方の人と繋がることのできることで、心からやって良かったと感じています。昔は人と話すことが億劫でしたが、農業を通じて私の考えに共感して下さる方々と出会い、今は人と話すのも楽しいし、周りの目を気にし過ぎず自分の意見を言うようになったと思います。というより、本来の

自分を取り戻した気がします。

暮らしも自然のリズムに合わせたものになりました。夏季は、4時半に起床して、午前中に田んぼの管理、収穫、出荷作業、草刈りなどをします。昼食後はまた畑仕事を19時頃まで行い、日付が変わる前になんとか就寝。冬季はハウスの雪下ろしや大豆を莢から落したり選別したりする作業をメインに、経営に関する仕事もこの時期に集中してやります。仕事に対する満足度は、体力が足りていない部分があると感じますが、人間関係、ストレス、金銭面、学びの全ての面で心から満足しています。お客さまは勿論、同じ栽培をしている仲間、先輩の存在はとても大きいです。知識や技術の共有、販売先の紹介など、本当に助けられています。

自分の感性を大切に

私は、農業を始めてから、自分自身が心地よいと思うことを大事にしています。他の人の意見ではなく、自分がどう思うかを常に優先しています。皆さんも、自分の感性を無視せず、大事にしてほしいです。自分がこうだ！と感じた想いを自分自身で肯定してほしいと思います。たとえ周囲の意見が否定的だったとしても、自分の感性を尊重してください。そこに正しいとか間違いつかはありません。自分の感性を大事にすることが、幸せになるための近道になるのではないかと私は思います。



「何のタネだと思う？」ゴボウと人参の種を手渡す阿部さん



左が阿部かおりさん。同級生で櫛引中学校同窓会役員の梅津夕子さんと対談しながら会が進められました。